

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
泉谷 泰行、渡邊 敏明、根来 宗孝、榎原 周平、藤井 崇子			
水3、4、5			
添付ファイル			

科目の概要	解剖生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基礎に、人体の構造と機能を系統的に学修します。具体的には、人体模型と骨格模型を用いて人体の構造を立体的に捉え、顕微鏡で各器官の微細構造を観察し、人体の機能との関連について学修します。また、身体計測、循環器検査等の概略を学び、それぞれの測定値が健康度判定や病気の診断にどのように用いられるかを学修します。更に、実際にラットの解剖を行い、各器官の局在および形態をヒトと比較することで、人体の構造への理解を深めます。
授業の内容	<p>1. 実験 オリエンテーション、第1回実験 組織標本の観察Ⅰ（泉谷）</p> <p>2. 実験 第2回実験 組織標本の観察Ⅱ（泉谷）</p> <p>3. 実験 第3回実験 人体模型の観察（泉谷）</p> <p>4. 実験 第4回実験 骨格模型の観察（泉谷）</p> <p>5. 実験 第5回実験 身体計測、呼吸機能測定（藤井）</p> <p>6. 実験 第6回実験 血糖値測定、尿検査（根来／榎原）</p> <p>7. 実験 第7回実験 ラットの解剖（渡邊、根来／榎原、藤井）</p> <p>8. まとめ（泉谷）</p>
学習到達目標	人体について、細胞レベルから組織・器官レベルまで、構造と機能を説明できる。食事、運動、休養などの基本的な生活活動の機構や環境変化に対する対応機構を説明できる。
授業の方法	<p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験 <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験班ごとに課題を取り組むなかで、学生同士の主体的な学び、積極的な対話を望む。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを利用し実験の説明をする。 ・適宜Microsoft officeのアプリケーションを利用し、実験内容の補足等を行う。 <p>【その他特記事項】</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■授業態度 <ul style="list-style-type: none"> ・実験に対して積極的に取り組んでいるか ・実験内容を理解した上で実験に取り組んでいるか など ■レポート <ul style="list-style-type: none"> ・課題の内容を理解できているか ・指示された内容（課題）をわかりやすく提示できているか など <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■授業態度 20% ■レポート 80%
教科書・テキスト	解剖生理学の授業で使った教科書「読んでわかる解剖生理学（テキスト）」、竹内修二著、医学教育出版社を使用します。
参考書	<p>「栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第3版」、志村二三夫、岡 純、山田和彦編、羊土社、2020</p> <p>「プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版」、坂井建雄監訳、医学書院、2019</p> <p>「読んでわかる解剖生理学（テキスト）」、竹内修二著、医学教育出版社、2014</p> <p>「入門組織学 改訂第2版」、牛木辰男著、南江堂、2013</p> <p>「Nブックス 実験シリーズ 解剖生理学実験」、青峰 正裕・藤田 守編著、建帛社、2009</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	予め、その日の実験の内容を予習・確認し、分からない事柄があれば調べてきてください。実験で理解できなかったことはメディアセンターなどを利用し、次回までに解決してください。

履修上の留意事項	日頃から人体のしくみと働きについて関心を持ち、基本的な知識を身につけてください。
オフィスアワー	泉谷：金曜日4・5限目 渡邊：実験中に指示 根來：実験中に指示 榎原：実験中に指示 藤井：実験中に指示
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの添削 ・実験内で直接対応 ・適宜、Microsoft officeのアプリケーションを利用して対応
実務経験	
その他	<p>実験中、積極的に発言・質問してください。 実験班で協力し、積極的に実験を行ってください。 私語は慎み、指示がなければ携帯端末等を使用しない。</p> <p><実験室に入る際の注意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず白衣を着用すること ・運動靴など実験に適した靴を履くこと（ヒールの高い靴、サンダルは不可） ・髪の毛が肩より長い場合は、まとめること ・アクセサリ等は外しておくこと ・色鉛筆を持参すること